

特集 1

クリニカルコーチ育成研修

臨床と大学が協働した教育プログラムの実施

新人看護師への教育が手厚くなる一方、看護業務の煩雑化・多忙化、主任や師長が教育に十分に関わる時間が確保しにくいなどによる、プリセプターの負担・疲弊が指摘されている。師長と協働しながら、自部署のプリセプターへの指導・支援などを行なうクリニカルコーチを育成することで、この問題を緩和するとともに、十分に役割が与えられていなかった中堅看護師の活躍の場をつくることができる。

本特集では、東京女子医科大学看護職キャリア開発支援センターでの、クリニカルコーチ育成の取り組みについて紹介する。

- クリニカルコーチとは何か
- クリニカルコーチの役割——1年目を振り返って
- クリニカルコーチがいることによる効果——プリセプターの立場から
- クリニカルコーチがいることによる効果——看護師長の立場から
- 看護職キャリア開発支援センター全体について
- キャリア開発支援センターの意義——教育の立場から

特集 2

チームで行なう院内自殺予防

タイダルモデルを活用した NTT 東日本関東病院の取り組み

院内自殺が生じた場合、他の入院患者はもちろん、スタッフにも大きな影響がある。NTT 東日本関東病院では、入院患者全員への包括的自殺評価に加え、自殺のリスクの高い患者に対しては、タイダルモデルを用いたチームによる看護面談を導入している。チームで関わることにより、プライマリナース不在時でもタイムリーにアプローチできるようになること、若手スタッフのストレスを軽減するとともに、患者対応の際に生じるリスクを減らすことができることなど、管理者にとってのメリットを紹介する。

- タイダルモデルとは
- 治療のなかでの位置づけ
- タイダルモデルを用いるメリット

編集後記

●よい仕事をするためには技術だけでなく、やはり各自の内側にある「思い」も重要な要素を担います。近年の新人看護師の傾向についてはさまざまな指摘がありますが、「思い」を共有することで見えてくることもあるのではないかと思います。／今月号で『看護管理』を卒業することになりました。多くの著者や読者に支えられ、幾分か成長できたのではないかと思います。またどこかでお目にかかれる日を祈って……！ 2年間ありがとうございました。(西窪)

●青天の霹靂！ 臨床医学系書籍と営業系の担当経験しかなかった私に、『看護管理』の担当に決まりました。と言われたときはまさにそんな気持ちでした。そして、2年間。毎号、焦燥を撒き散らしながらの作業で、読者の皆様に安

定して有益な情報を提供できた気がかかっています。そういう訳で、『看護管理』を卒業します。ですが、またいつか戻って来るかもしれません。いったんエンドロールを記し、お礼の言葉を述べて、最後の編集後記とします。ありがとうございました。(金子)

●帰り新参、古巣に戻る、帰参、舞い戻る……「出戻り」という言葉を類語辞典で調べたところ、上記のような言葉がヒットしました。／2年ぶりに『看護管理』の編集に戻ることにしました。看護管理を取り巻く時間、情報の流れは速く、いささか浦島太郎の様相です。できるだけ早くキャッチアップできるよう精進したいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。(小齋)

看護管理 第23巻第5号

2013年5月10日発行(毎月1回10日発行)

発行 株式会社医学書院

代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

Published by IGAU-SHOIN Ltd.

1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

©2013, Printed in Japan

定価 1575 円(本体 1500 円 + 税 5%)

2013 年年間購読料

冊子版 18450 円

冊子+電子版/個人 21450 円

冊子+電子版/共有 24300 円

電子版/個人 18450 円

電子版/共有 21300 円

(いずれも税込、送料弊社負担)

『看護管理』編集室(担当 西窪, 金子,

早田, 小齋, 伊藤)

TEL03-3817-5777 FAX03-5804-0485

E-mail kangokanri@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp

●定期購読のお申し込み先/医学書院販売部

TEL03-3817-5659

本誌に掲載する著作物の複写権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は、(株)医学書院が保有します。

【JCOPY】(社)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて、業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行なうことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行なうことは違法となります。複写される場合は、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(TEL03-3513-6969 FAX03-3513-6979 info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された[0917-1355/13/¥250/論文/JCOPY]は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCOPYへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。